

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光学概論 Introduction to Tourism		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(観光ビジネス実務士必修科目 ビジネス実務士必修科目)	全学生および観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ホテル業概論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斎藤 清		火曜日・水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光産業は、多岐の分野に影響を及ぼし、観光の持つ役割は極めて大きい。近年では町おこしを柱として、観光関連産業が注目されている。また観光立国宣言をした日本は、海外旅行や国内旅行だけにとどまらず、訪日外国人旅行の誘致も不可欠になってきている。これから観光を学ぼうとするための基礎的内容となる。				
授業の目標				
①観光とは何か、観光の意義を表現出来るようにする。 ②観光産業とはどのような産業かを修得出来るようにする。 ③観光ビジネスの特性は何か、を伝えることが出来るようにする。 ④観光ビジネスの現場でどのような対応をするか、考えることが出来るようにする。				
授業の方法				
テキストを使用し、講義形式で実施する。 観光の基礎、観光産業、観光ビジネスを分かり易く説明する。また観光経済新聞やトラベルジャーナル等で扱われる観光関連記事を読み合わせし、それらの記事に対する感想を述べ合ったり課題の解決策を発表しながら、観光の最新事情を学んでいく。				
学習の成果(学習成果)				
観光を学ぶ意味を考えることができる。 観光に関わる言葉を修得することができる。 観光のしくみや観光の様々な効果を実感し、関心を持つことができる。 観光資源と観光対象、観光産業について基礎的な知識を修得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション(講義の進め方)			
第2回目	観光を学ぶ意味(観光学はおもしろい)			
第3回目	観光の様々な効果			
第4回目	観光に関わる言葉			
第5回目	観光のしくみ			
第6回目	観光資源と観光対象			

第7回目	観光産業の構成と特徴 レポート課題提示
第8回目	様々な観光ビジネス（旅行業①） レポート提出
第9回目	様々な観光ビジネス（旅行業②）
第10回目	様々な観光ビジネス（宿泊産業）
第11回目	様々な観光ビジネス（交通運輸業）
第12回目	様々な観光ビジネス（テーマパーク他）
第13回目	観光と情報
第14回目	旅の歴史とこれからの旅行
第15回目	全体のまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に積極的に参加し、ノートをとる。不明なことがあれば質問する。好奇心と興味を持って授業に臨んでいるか、その態度が評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	課題が出されたときには、期限内に提出すること。（第7回目実施予定） S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	観光の意義や観光にかかわる産業について理解度を図る。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

観光学基礎（JTB総合研究所）

履修上の留意点・ルール

3分の1以上欠席した場合は、理由の如何を問わず単位認定しない。
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁。